

幼稚園教員養成課程における領域「健康」の新設科目の開講状況 ：国立教員養成大学・学部のシラバス分析による結果

山 津 幸 司

Status of Courses Offered in New Courses in the Area "Health" in
Kindergarten Teacher Training Courses in Japan
: From Syllabus Analysis of National Teacher Training Universities and Faculties

Koji YAMATSU

要 旨

我が国の幼稚園教員養成は、2016年12月の中央教育審議会の答申を受け、2017年3月に幼稚園教育要領(文部科学省, 2017)などが改訂され、保育所や幼保連携型認定こども園と共通性・連携性をもった教育サービスの提供が必要となった。そのため、大学などの養成校では幼稚園教員養成段階でのカリキュラムの改善が求められている。幼稚園教育要領の改訂に伴い教職課程コアカリキュラムが作成され、新しく位置付けられた「領域に関する専門的事項」の中で5領域の専門科目を新設する必要性が生じている。本研究では、国立教員養成大学・学部において領域「健康」の中で新しく開設が求められた科目(モデルカリキュラム名は「幼児と健康」)の新設状況を調査することを目的とした。本研究の分析結果から、幼稚園教員免許を取得できる国立大学50校のうち14%にあたる7校のみが「幼児と健康」に相当する科目を開講していることが明らかとなった。分析対象となった7校7科目を詳細に分析した結果、いくつかの特徴が認められた。一つ目は科目担当者に体育学の専門家が100%配置されていたこと、二つ目は専任教員が担当している科目が多いこと、最後に幼児期運動指針をシラバスに記載している科目が皆無であったこと、などの特徴がみられた。今後も定期的に同様の分析を行い、領域「健康」の「領域に関する専門的事項」に関する科目をだれが担当すべきか、何をどのように教えるべきか、などを明らかにしていく必要があると考えられた。

Key words : 幼稚園教育要領, 教員免許, 大学講義, カリキュラム, シラバス, 幼児期運動指針

1. 研究の背景と目的

我が国の小学校入学前の幼児に対する公教育に関しては、2017年に幼稚園教育要領(文部科学省, 2017)、保育所保育指針(厚生労働省, 2017)、および幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府,

2017) が改訂され、より質の高い教育・保育の提供が求められている。

幼稚園教育要領は、21世紀を生きる子供たちの教育を充実させるために「環境を通して行う教育」を重視し、10年毎に見直されてきている。幼稚園教育要領は1948年に作成された保育要領を6領域に区分し1956年に公示されたが、その後も教育基本法や学校教育法の一部改正などもふまえて改善がなされてきた（高内、2016）。

幼稚園教員の養成は国公立の大学や短期大学が担ってきたが、2017年の幼稚園教育要領などの改訂により、幼稚園教員の資質能力の視点から養成課程の質保証のための取組が求められている。今回の幼稚園教育要領の改訂は、中央教育審議会答申を踏まえて、「①幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化」「②小学校教育との円滑な接続」「③現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し」という3つの基本方針に従い行われている（文部科学省、2018年）。2017年の幼稚園教育要領の改訂では、多くの重要な改善がなされたが、特に著者の専門に近い領域「健康」と関連する事項として、次のような変更が生じた。

2017年の幼稚園教育要領等の改訂に伴い、「教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会」（一般社団法人保育教諭養成課程研究会、2017）において、幼稚園教育の5領域のそれぞれで「領域に関する専門的事項」を扱う科目を新設する必要が生じた。著者は教育学部の保健体育科教員として活動し、教養教育の体育実技、専門教育の小学体育や体育心理学などを担当してきたが、今回の幼稚園教育要領の改訂に伴うカリキュラムの変更で、領域「健康」の専門的事項に関する科目（科目名称は「幼児と健康」の予定）を担当することとなった。

2017年の幼稚園教育要領の改訂に伴う新設科目は、移行期間中ということもあり、著者が所属する佐賀大学でも2021年度に課程認定を受け、2022年度から「幼児と健康」という新設科目を著者が提供する予定である。新設される「幼児と健康」は、乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を扱うことから、体育学とのかかわりが深く、幼稚園教員養成を行う各大学において誰を科目担当するかは重要な案件となっている。しかしながら、国立教員養成大学・学部において領域「健康」の「領域に関する専門事項」に関する新設科目の開講状況の知見は限られている。

そこで、本研究の目的は、我が国の国立教員養成大学・学部で幼稚園教育要領の改訂で新設が求められている領域「健康」の「領域に関する専門事項」に関する科目（モデルカリキュラムの科目名は「幼児と健康」）の開講状況を調査し、シラバス分析を通じて領域「健康」の新設科目の特徴や課題を明らかにすることであった。

2. 方 法

研究対象は、教員養成課程にて幼稚園教員免許を取得可能な全国の国立大学50校であった。そのうち幼稚園教員免許関連科目の領域「健康」の新設科目（モデルカリキュラムの科目名は「幼児と健康」）の開講状況を調べた。具体的には、開設の有無や内容の詳細情報を得るために、各大学の履修の手引きやシラバスを入手し分析を行った。2020年7月末時点で各大学のホームページから該当科目を検索し、入手できたシラバスを解析対象とした。分析に用いた全シラバスのURLは巻末（付録）に記載した。

3. 結 果

3-1. 新規開講状況

2020年7月末現在で、国立の教員養成大学・学部において幼稚園教員免許の取得が可能である50校のうち、領域「健康」の新設科目を既に開講していたのは7校（14.0%）のみであった。その7校は、宇都宮大学・群馬大学共同教育学部、山梨大学教育学部、静岡大学教育学部、愛知教育大学教育学部、奈良教育

大学教育学部、鳴門教育大学学校教育学部、愛媛大学教育学部であった。宇都宮大学と群馬大学は共同教育学部を設置しており、1科目で両大学の学生が受講可能であるが、本研究では1校1科目として取り扱った。

開講割合の高かった地域は、東海と四国のそれぞれ50%（各地域とも4校中2校）が最も高率であり、関東の25.0%（8校中2校）が続き、近畿は12.5%（8校中1校）であったが、地域分布に有意差は認められなかった（ $\chi^2=13.6$, $P=0.091$ ）。上記以外の地域で幼稚園教員免許のとれる国立大学は北海道1校、東北6校、北陸6校、中国5校、九州8校だが、領域「健康」の新設科目はまだ開設されていなかった。

3-2. 授業形態に関する主な結果

分析対象となった7校7科目のうち、科目名称がモデルカリキュラムと同じ「幼児と健康」としていたのは3科目（42.9%）であった。その他の科目名称としては、「幼児の健康・運動」「幼児の健康と運動」「子どもと健康」「保育内容（健康）」がそれぞれ1科目で用いられていた。ちなみに、「保育内容（健康）」という科目名称は指導法の科目名で用いられることが多いが、今回の山梨大学が開講している「保育内容（健康）」は教科内容を扱う科目であることを確認済みである。

単位数は1単位が4科目（57.1%）と最多であり、2単位が3科目（42.9%）であった。

担当人数については、1名のみでの開講が4科目（57.1%）、2名での開講が2科目（28.6%）、3名での開講が1科目（14.3%）であった。専任教員が全て担当しているのは4科目（57.1%）であり、専任教員が少なくとも一部を担当していたのは6科目（85.7%）であった。学外非常勤講師が少なくとも一部を担当しているのは3科目（42.9%）であり、全てを学外非常勤講師が担当しているのは1科目（14.3%）のみであった。担当者に日本体育学会の会員（一般社団法人日本体育学会、2018）が含まれていたのは7科目（100%）であったが、非会員が授業の一部を担当している科目は2科目（28.6%）であった。

開講時期は後期が5科目（71.4%）、前期が2科目（28.6%）であった。

対象学年は1年生以上が3科目（42.9%）で最多であり、2年生以上と3年生以上がそれぞれ1科目（14.3%）、記載なしが2科目（28.6%）であった。

授業評価は全科目が複合または総合的な観点で行われていたが、個別ではレポートが6科目（85.7%）、授業への取り組み状況が6科目（85.7%）、テスト実施が3科目（42.9%）、発表やプレゼンが2科目（28.6%）、討論が2科目（28.6%）の評点に基づき評価を行うとされていた。

3-3. 授業内容に関する結果（表1）

「幼稚園教育要領（文部科学省、2017）」を教科書・参考図書として指定していたのは2科目（28.6%）であり、その他の教科書を指定していた科目も2科目（28.6%）であった。教科書（参考図書のみ記載の場合あり）を指定せず配布資料の配布のみが2科目（28.6%）、教科書や資料等の記載なしが2科目（28.6%）であった。

表1は「幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究」で紹介されている「幼児と健康」のモデルカリキュラムである。分析対象の7科目のカリキュラムが本モデルカリキュラムの目標を満たしているか検証を試みたが、カリキュラムのみの情報で分析対象7科目がモデルカリキュラムの内容を十分満たしているかを評価することはできなかった。

幼児期運動指針（幼児期運動指針策定委員会、2012）は文部科学省が義務教育就学前の幼児に必要な運動量の目安として示したものであり、幼稚園教育要領と同じホームページ上で紹介されている。領域「健康」の科目内で教えるべき内容だと考えられるが、分析対象となった7科目のカリキュラム上に記載され

表 1. 一般社団法人保育教諭養成課程研究会が紹介している「幼児と健康」のモデルカリキュラム

全体目標 当該科目では、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。

(1) 幼児の健康

一般目標 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。

到達目標 1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。
2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。

(2) 体の諸機能の発達と生活習慣の形成

一般目標 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。

到達目標 1) 乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。
2) 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。

(3) 安全な生活と病気の予防

一般目標 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。

到達目標 1) 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。
2) 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
3) 危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。

(4) 幼児期の運動発達と身体活動

一般目標 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。

到達目標 1) 乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。
2) 幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。
3) 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。

[留意事項] 1) 幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例等を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。
2) 領域「健康」に関わる学問的基盤や幼児教育に関わる専門性をもって健康における幼児期の課題を講義できる人材が担当するにふさわしい。

出典：平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究（保育教諭養成課程研究会、平成29年3月）

ている科目は皆無であった。

4. 考 察

4-1. 新規開講状況に対する考察

幼稚園教員免許を取得できる国立大学は全国に50校あるが、幼稚園教育要領に伴う領域「健康」の新設科目をすでに開講済みであったのは7校（14.0%）と少数であった。2020年7月現在においては経過措置の期間であることから、領域「健康」に関する専門事項の新設科目を急いで開設する必要はないと判断している大学が多数であった。著者が所属する佐賀大学教育学部においても、2021年9月頃に課程認定の申請を行い、2022年度から領域「健康」の新設科目である「幼児と健康」を開講し、著者が担当する予定である。

領域「健康」の新設科目をすでに開講済みの国立大学は地域的に偏在しており、東海と四国が各50%と高率であったが、教員養成の単科大学を抱えている地域で開講割合が高くなる傾向がみられた。また、幼稚園教員免許のとれる国立大学は北海道、東北、北陸、中国、九州にも存在するが、それらの地域ではいずれも領域「健康」の新設科目を開講していなかった。科目担当候補者が本科目を担当可能な研究業績を蓄積する準備期間にあてていると思われる。

4-2. 授業形態に関する考察

領域「健康」の新設科目を開講し、シラバスを収集できた7校7科目の分析を試みた結果、科目名称は「幼児と健康」が3科目と最多であったが、他にも「子ども」「運動」などのキーワードを用いた科目名称がみられた。

領域「健康」の新設科目の担当者には現時点でもいくつかの特徴がみられた。最も特徴的であったのは、科目担当者に日本体育学会の会員が含まれる割合が100%であった点である。日本体育学会の会員であるということは、体育学を専門とする教員が本新設科目を担当していることを意味している。体育学の専門家は、中学や高等学校の保健体育科教員免許の取得のための科目担当になることが多いが、小学校教員免許の体育科に関する科目担当者も多く、また幼稚園教員免許科目の領域「健康」を担当する場合も少なくない。本研究の分析対象科目が少数であり今後も研究を続けていく必要はあるが、幼稚園教員免許の領域「健康」の新設科目は体育学を専門とする教員が少なくとも一部を担当するのが望ましいと考えられる。幼稚園教員免許の領域「健康」の科目には本研究で注目する教科内容の「幼児と健康」以外に、指導法の「保育内容（健康）」もある。今後、残り43校でも領域「健康」の新設科目の課程認定が行われるため、授業内容と担当者の専門との確認を続けていくべきである。

科目担当に関しては、専任教員の担当が半数で見られ、学外非常勤講師のみでの担当は少数であった。今回の幼稚園教育要領の改訂に伴う新設科目の課程認定に合格するために、大学教員の公募が行われている。いずれにしても、本科目の担当に相応しい専門家が配置され幼稚園教員養成の質を高めていただきたい。

以上の結果から、国立教員養成大学・学部においても幼稚園教員養成課程で新規開設が求められている領域「健康」に関する専門的事項の新設科目の開講状況は極めて少なく、多くの大学が様子見であり、かつ授業内容の検討や授業担当者の業績確保に準備を要していることと推察された。

4-3. 授業内容に関する考察

授業内容については、詳細な検討を行うことができなかった。「幼児と健康」に関するモデルカリキュラム（一般社団法人保育教諭養成課程研究会、2017）は出されているため、モデルカリキュラムと収集したシラバスを照合することで当該授業が質を満たしているかを評価可能であると考えられた。しかし、シラバスの限られた情報だけで評価を試みることは容易ではなく、本評価の枠組みを確立することが先決であると思われた。今後は、幼稚園教育要領解説（文部科学省、2018）やモデルカリキュラム（一般社団法人保育教諭養成課程研究会、2017）などが求める教科内容を各大学の開設された科目が満たしているかを評価できる手法を開発していく必要がある。

また、別の視点で検討した結果、「幼児期運動指針」をシラバスに明記している科目は皆無であった。幼児期運動指針（幼児期運動指針策定委員会、2012）は文部科学省が義務教育就学前の幼児が最低限確保すべき身体活動量の基準を示したもので、文部科学省のホームページでも「幼稚園教育要領（文部科学省、2017）」と同ページ内にリンクが張られており、領域「健康」で教えるべき内容の一つであると思われる。にもかかわらず、全てのシラバスの中に記載が全くなかったのは問題かもしれない。シラバスに記載していないものの授業で扱っている可能性も否定できない。しかしながら、授業に関連した重要な理論やキーワードのシラバス掲載は絶対に必要なことであろう。体育学の専門教員であれば「幼児期運動指針」は必ず学習する内容である。今回の分析対象となった7科目の全てで日本体育学会の会員が授業担当していたため、今後は可能な範囲で関係学会などを通じて「幼児期運動指針」を幼稚園教員養成課程の領域「健康」の科目群の中で扱うよう推奨していく必要がある。

4-4. 本研究に関連する今後の課題

本研究に関連する今後の研究課題をいくつか挙げておきたい。

今後の研究課題の一つ目は、授業内容の質評価を可能とする標準的な基準が必要である。そのような視点での先行研究（入江ほか，2018）としては、モデルカリキュラムと自開講の授業内容を比較・評価する取組などが提案されている。

二つ目として、カリキュラムや授業内容の改善に向けての視点や具体的方法論の確立が必要である。カリキュラムや授業内容の改善は常に行われていると思うが、真に有効な改善が行われているかを見通せる指針などが不可欠のように思われる。領域「健康」の授業の見直し、5領域の連携を考慮した見直し、幼小連携を考慮した見直しなど多様な視点で取組が試行（井上ほか，2018）されているため、それらを集約し役立てていくような研究を行わなければならないだろう。

最後に、幼稚園教員養成の領域「健康」に関しては教科書や資料が多数存在している（例えば、民秋ほか，2014；川邊ほか，2011；高内，2012；菊池ほか，2008など）。しかし、一長一短は否めないため、長所を集約した質の高い教育教材の作成を期待したい。

4-5. 本研究の限界

本研究では、各国立大学のホームページより検索し得ることのできた履修の手引きやシラバスに基づき分析を行った。シラバスから授業内容を適確に理解することは難しい。そのため、本研究の結果が真に正しく評価できていると考えるのは危険かもしれない。今後、授業担当者に直接ヒヤリングを行い、内容を適切に把握したうえで議論を進めていくべきである。

また、領域「健康」の「領域に関する専門的事項」に関する科目の新設は全50校の14%に留まっていた。今後も継続して研究を行い、分析対象の100%導入により、適切な分析結果と考察を提供していく必要がある。

引用文献・参考文献

- 文部科学省，幼稚園教育要領，2017 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019.htm
- 厚生労働省，保育所保育指針，2017 https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010450&dataType=0&pageNo=1
- 内閣府，幼保連携型認定こども園教育・保育要領，2017 https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010420&dataType=0&pageNo=1
- 文部科学省，幼稚園教育要領解説，2018 https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf
- 文部科学省，体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究報告書，2011 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/youjiki/index.htm
- 一般社団法人日本体育学会，日本体育学会会員名簿，2018
- 一般社団法人保育教諭養成課程研究会，平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究：幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える，2017 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2017/05/19/1385791_1.pdf
- 幼児期運動指針策定委員会，幼児期運動指針，2012 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm
- 井上邦子・笠次良爾・宮下俊也・高木祐介・横山真貴子，教員養成における幼稚園5領域科目の内容構成（1）：「健康」に関わる教育内容研究知見に依拠して，次世代教員養成センター研究紀要，4，229-37，2018
- 民秋言・亀丸武臣（編），保育内容健康（新版），北大路書房，2014
- 川邊貴子・柴崎正行・杉原隆（編），保育内容「健康」，ミネルヴァ書房，2011
- 高内正子（編著），子どものこころとからだを育てる保育内容「健康」，保育出版社，2012
- 菊池秀範・石井美晴（編），新訂 子どもと健康，萌文書林，2008
- 入江慶太・荻野真知子・荻田聡子・岡田恵子・松本優作・後藤大輔，幼稚園教育要領改訂に伴う保育内容領域「健康」に求

められる授業内容に関する一考察：新しい教職課程におけるモデルカリキュラムとの比較を通して，川崎医療短期大学
紀要，38，85-89，2018

付録

本研究にて分析対象としたシラバスの引用元 URL（2020年7月末現在アクセス可能であることを確認済み）

記載内容は開講大学，開講科目名，担当者名，参照 URL の順に記載

1. 宇都宮大学・群馬大学共同教育学部，幼児の健康・運動，中雄勇人
https://www.kyomu-sys.gunma-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2020&lct_cd=EB2137&je_cd=1
2. 山梨大学教育学部，保育内容（健康），高野牧子，木村はるみ
<http://syllabus.yamanashi.ac.jp/2020/syllabus.php?jikanno=EEI246>
*「保育内容（健康）」という名称は教科指導法で用いられることが多いが，ここでは教科内容を扱う科目であることを確認済み
3. 静岡大学教育学部，幼児の健康と運動，遠藤知里
http://syllabus.shizuoka.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do;jsessionid=PHOLV2uHbCh2oIve-9GVA446QZRtlQMSLgBD-Lt1?subjectId=210600089162&formatCode=1&rowIndex=0&jikanwariSchoolYear=2019
4. 愛知教育大学教育学部，幼児と健康，鈴木裕子
<https://iris-info.office.aichi-edu.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp>
5. 奈良教育大学教育学部，子どもと健康，井上邦子，笠次良爾，高木祐介
https://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/KYOUNU/syllabus/2020/detail/2020_01_G2179.html
6. 鳴門教育大学学校教育学部，幼児と健康，乾信之，湯地宏樹
http://syllabus.naruto-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do;jsessionid=WZFL4mm2WE-PNmEcPXXTkMVKmap2?subjectId=029400789933&formatCode=1&rowIndex=0&jikanwariSchoolYear=2020
7. 愛媛大学教育学部，幼児と健康，糸岡夕里
<https://campus.ehime-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/Print.aspx?>